

広報 すぎなみ

思い出を再生する  
杉並の“名医”たち。

Suginami

{ 7 / 15 }  
平成29年(2017年)  
No.2207



支えあい共につくる  
安全で活力あるみどりの住宅都市 杉並

子どもたちにとっておもちゃは、いつも一緒にいる友達のような存在です。ふとしたはずみに動かなくなっても、「どうにかして直らないかな。また一緒に遊びたい」と願うものです。そんな思いに力強く応えてくれる、おもちゃ修理の専門家が杉並にはいます。その名も「杉並おもちゃドクターズ」。卓越した技術と豊富な知識で、どんな故障にも立ち向かい復活させる、子どもたちの強い味方です。

特集

すぎなみピト

# 杉並おもちゃドクターズ

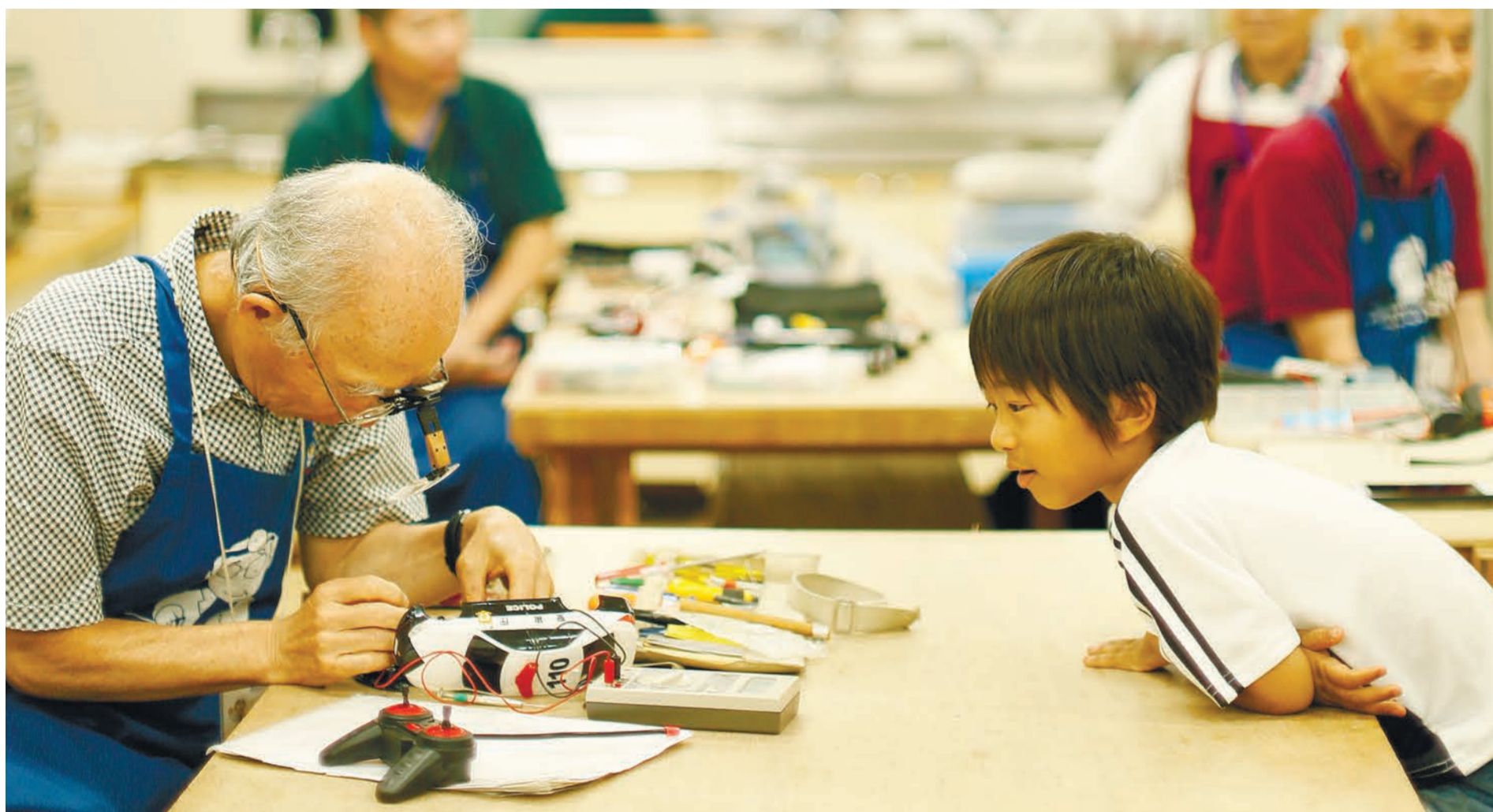


Contents — 主な記事 —

6 | (仮称)天沼三丁目複合施設の愛称を募集します 8 | 児童館・図書館 8月の行事 10 | なかま集まれ! 16 | 阿佐谷七夕まつり

〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 | ☎ 3312-2111(代表) FAX 3312-9911(広報課直通) | 🌐 区ホームページ: <http://www.city.suginami.tokyo.jp/> | 📄 発行: 杉並区 | 📝 編集: 広報課

広報すぎなみは月2回(1・15日)発行。新聞折り込みのほか、区の施設・駅・コンビニエンスストアなどの広報スタンドに設置しています。



# ドクターは皆、機械いじりが好き。おもちゃが治ると誰より自分がうれしいんだよ。

「杉並おもちゃドクターズ」は、おもちゃの修理を無償で引き受けるボランティア団体です。5年に井草地域区民センターで開催された「おもちゃドクター養成講座」に参加した人たちによって立ち上げられました。シルバー世代が、やりがいを持って地域貢献に取り組む好事例としても注目されているこの活動の魅力について、10年以上にわたり代表として活動をもり立ててきた長凡さんと、この春、長さんからバトンを引き継ぎ、新代表に就任した片岡末廣さんに語っていただきました。

## ドクター同士が協力し合って治療にあたる

一診察風景を拝見しましたが、すごい活気ですね。

長：どのドクターも、生き生きと治療に取り組んでいるでしょう。症状が重い「患者」（故障したおもちゃ）を創意工夫で治療するところに、おもちゃドクターの面白さがあります。一生懸命に考えてたどり着いた治療方法が正解だったときは最高です。

片岡：おもちゃドクターは経験がものをいう仕事ですが、長さんをはじめとするベテランドクターが手厚くサポートしてくれるので、若手ドクターも伸び伸び治療しています。2、3人のドクターがタッグを組んで、協力し合って治療にあたることもよくあるんですよ。その周りでは、治療の様子を子どもたちが食い入るように見つめていて、故障していた患者が動きだすと目がキラキラと輝きだします。その雰囲気がいんですよ。

一おもちゃメーカー出身の方が多いいですか。

片岡：おもちゃメーカー出身のドクターはいませんが、ドクターのほとんどは技術系の職業に就いていた経験を持っています。

長：私は、もともと放送局で電波の送信に携わる技術者でした。仕



病気ではなくて、おなかがすいていた(電池切れ)だけかな。



これは骨折だね。つないであげるから、ちょっと待ってね。

事の内容もおもちゃとは何の関係ありません。でも、子どもの頃から機械いじりが好きで、自宅の時計を分解しては父や母に叱られていました。ここのドクターたちは、そんな人ばかりですよ。

片岡：戦中、戦後に子ども時代を送った方が多く、「子どもの頃はおもちゃがなくて寂しい思いをしていた」という声を聞きます。だから今の素晴らしいおもちゃに触れられることが皆、うれしいんです。

## 持ち主の思いに応じておもちゃに命を吹き込む

一皆さん、この活動にやりがいを感じているようですね。

長：近頃は、修理を依頼すると新品に交換してくれるメーカーもあると聞きます。日本国内の工賃が高いため、その方が合理的なのでしょう。でも、私たちのもとを訪れるのは、「愛着のある自分のおもちゃで、もう一度遊びたい」という人ばかりです。その思いに応えることは、おもちゃドクターズの重要な役目だと考えています。

一おもちゃドクターズの存在意義はそこにあるんですね。

長：ただね、人に喜んでもらえるのもやりがいですが、それ以上に自分がうれしいんですよ。自分の手で患者を治したという達成感が格別なんです。自分がうれしくて相手も喜んでくれるんだから、もう最高だよ。

片岡：付け加えると、おもちゃドクターズの活動は高齢なドクターたちにとって健康づくりのいい機会になっています。重い工具をリュックに詰め込んで徒歩で区民センターに出掛けて、診療では一生懸命に治療方法を考えて治療にあたります。このように頭も身体も指先も目いっ

すぎなみビト  
interview  
杉並おもちゃドクターズ

お話を伺ったのは...

ドクターは現在15名です。なんでも気軽に相談しにきてくださいね。

プロフィール：写真左：長凡（ちょう・ひろし）、昭和11年福岡県生まれ。かつては放送局のエンジニア。5年から井草地域区民センターでスタートした杉並おもちゃドクターズに参加する。19～29年に代表を務め、活動の成長に貢献する。写真右：片岡末廣（かたおか・すえひろ）、昭和25年大阪府生まれ。かつては電話会社のエンジニア。新聞記事で知ったおもちゃドクターに興味を持ち、23年から杉並おもちゃドクターズに参加する。29年4月、代表に就任。ドクターたちのまとめ役を務めている。



電池には電池同士のいじめ合いがあるんだよ。だから違う種類の電池を入れないでね。

ばいに使う活動が毎週のようにあるのですから、ドクターは皆はつらつとしています。

一地域貢献や環境啓発など、この活動が地域や区民の皆さんに与える影響は大きいと思います。

長：私たちとしては、特別な目的があって活動しているわけではないんです。先ほど述べたように、自分たちが楽しいからやっているだけです。

一今後、この活動をどのように育てていきたいとお考えですか。

長：現在の活動は、皆がやりがいを持っておもちゃの治療に取り組める最適な形なので、このまま続けていければ、それが一番だと思っています。

片岡：同感です。これからも皆で協力し合って和気あいあいと取り組める活動にしていきたいと思っています。

一おもちゃドクターズの今後の活躍に期待しています。

長：杉並おもちゃドクターズは、得意な技術がそれぞれに異なる15名ものドクターを擁する大学病院のような存在です。ほかの病院では対応してもらえなかった患者も、私たちに診せてもらえば完治するチャンスがきっとあるはず。ぜひ、杉並おもちゃドクターズを頼りにしてください。

おもちゃの病院  
治療の流れ

〈受付〉  
病院は区内4カ所です。まずは受付で問診票に患者の症状（どんな故障か）を書き込み、ドクターを選んでもらいます。

〈診察〉  
ドクターの治療に立ち会うこともできます。そのときは、おもちゃの使い方と症状を詳しく説明してください。

〈入院〉  
その日のうちに治療が終わらない場合、入院することになります。預り証を作成し、退院後の引き取りを約束します。

〈治療〉  
さまざまな道具を使い、治療していきます。場合によっては、複数のドクターが協力して作業します。

治った!!  
まれに回復しないおもちゃもありますが、これまで9割が完治しています。

information!

おもちゃの病院開催中!

おもちゃの病院は井草地域区民センター(下井草5-7-22)で、月2回開催しています。8月の診療日は下記のとおりです。  
 日 8月12日(出)・26日(出) ▶ 受け付けは午後1時30分～3時 費 実費 井草地域区民センター協議会 ☎3301-7723 1家族3個まで

地域区民センター協議会が企画する催し・講座

区内7カ所の地域区民センターでは、地域区民センター協議会が企画する催し、講演・講座を多数開催しています。詳細は、「広報すぎなみ」毎月15日号に掲載の「コミュニティ通信」(今号は11面)または各地域区民センター協議会ホームページをご覧ください。

※おもちゃの病院は、毎月第3日曜日(8・10・2月を除く)に環境活動推進センター(高井戸東3-7-4 ☎5336-7352)や、毎月第2木曜日に下井草児童館(下井草3-13-9 ☎3396-8888)などでも開催しています。